

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	生命理工学研究科 生命情報専攻		
現在の学年	修士2年		
留学先国	アメリカ合衆国	留学先大学	カリフォルニア大学バークレー校
留学期間	2015年8月13日～2016年3月13日		

### ① 留学先大学の概略

カリフォルニア大学バークレー校(UC Berkeley)

カリフォルニア大学系列の中で最も古い歴史があり、“CAL”の愛称をもつ。学生運動の発祥地とも呼ばれており、現在も学生による議論やデモ活動が活発に行われている。

### ② 留学前の準備

#### ・ 留学先で所属する研究室について

UC Berkeley と東工大の協定は他の大学とは異なり、UC Berkeley に授業料を払い授業の単位を取得するか、東工大に授業料を払い UC Berkeley で研究をするか、でした。(後者の場合、単位数あたりで決められた金額を支払えば授業受講可能)私は研究留学が目的だったため後者を選びました。所属する研究室は、UC Berkeley の HP から、自分の分野に近いもので研究内容に興味がある研究室を探し、教授に直接連絡をしました。特に日本の研究室の教授とコネがある方ではなかったのですが、ラッキーなことに快く受け入れてくださいました。

#### ・ 修士論文との兼ね合いについて

私は修士1年の時に留学したため、修士論文についてどうするか日本の指導教官としっかり話し合いました。私の場合、指導教官に修士論文は日本でやったこととアメリカでやったことの二本立てで書けば良いと言われたので、全く異なる内容について研究してもよかったのですが、受け入れ先研究室の教授にお願いをし、日本で行っていた研究の延長をアメリカですることになりました。どちらの形にせよ、結果さえ出せばなんでもよい、という感じでした。

ただ、私の研究科は修士論文の中間発表が留学中の12月にあり、それに参加できなかったため代わりに帰国後に専攻の教授会で研究報告プレゼンテーションを行いました。

#### ・ 就職活動について

私の帰国は3月中旬でしたが、今年は就職活動の解禁が3月1日だったため少し乗り遅れることは覚悟していました。なので、11月にアメリカのボストンで行われる「ボストンキャリアフォーラム」に参加しました。私は食品や化粧品、清涼飲料系の企業の研究職を希望していたのですが、交換留学生は選考の対象ではない(海外の大学の正規生のみ対象)という企業が多く、またそもそも私の希望する分野の研究職を募集している企業が少なかったので選択肢はかなり限られていました。しかし、日本で行う就職活動よりも短期間で終わりますし、留学生にとっては仕事を得るまたとないチャンスだと思います。

#### ・ ビザの取得について

私が UC Berkeley から指定されたのは J-1ビザでした。ビザの取得に必要な書類はたくさんあり、留学先の大学のインターナショナルオフィスから発行してもらうものもあるので書類をそろえるのにかなり時間がかかります。また、ビザ取得に必要なアメリカ大使館での面接当日も、ビザを求めて大量の人々が大使館を訪れるため、予約時間から3時間ほど待つこととなります。留学準備の中でビザの取得が最も大変だったように思います。

- ・ 住居の探し方について  
最初のセメスターは UC Berkeley の留学生が多く住む International House という寮に滞在しました。というのも、以前同じプログラムで UC Berkeley に留学していた先輩方とお話をした際に、その寮に滞在することを勧められたからです。事前に International House の HP から申し込みをし、受け入れてもらいました。  
次のセメスターは、3月で帰国するため途中で寮を出ることになるが月割りにして寮費を払ってもいいかどうか寮に尋ねたところ、1セメスター分全部払うように言われ、あまりに高い寮費を奨学金なしで払うことが不可能だったため、家を探すことにしました。かなり幸運なことに、UC Berkeley での指導教官が紹介してくださった方の家にホームステイという形で住まわせてくれることになりました。最後の3ヶ月間は大学から徒歩20分くらいの家にホームステイしました。

### ③ 留学中の勉学・研究

授業は受講する権利がなかったのですが、指導教官に相談したところ彼が教えている講義を聴講させてもらえることになりました。聴講生でしたが、指導教官のおかげで中間テストを受けさせてもらうこともでき、大変でしたが良い経験をすることができました。  
研究留学だったので、週2回の上記の授業以外はずっと研究をしていました。  
指導教官をはじめその他研究室内の PhD の学生に多くの意見や提案をしてもらい、研究は良く進みました。

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

アメリカ国内に知らない土地がたくさんあり、特に現地の学生に勧められた場所に旅行に行きました。また、研究に土壌サンプルを用いるのですが、その関係もありフィールドワークに何度か出かけました。

### ⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

帰国直前に、研究室のミーティングで研究の成果報告プレゼンテーションをしました。初めてその研究室を訪れた時も自分の研究紹介をミーティングで行ったのですが、その時は緊張と、研究に関するプレゼンテーションは慣れていなかったのも、自分としてはあまり納得のいかない発表でした。  
しかし最後のプレゼンテーションでは、詰まることなく自然に発表することができました。指導教官や他のメンバーにも英語が成長した、非常に面白い研究だ、などたくさん良いコメントを頂くことができました。この時、この留学中で得たものや成長したことを、自分の肌でしっかり実感することができ、感動しました。

### ⑥ 留学費用

「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」の第2期生として奨学金を頂いておりました。また、大学院生になってから留学とは関係なく JASSO から奨学金を頂いており、留学中もそのまま受給しておりました。(トビタテと併給可能だったため)  
しかし、バークレーは物価が高く、さらに滞在していた International House は寮費がかなり高かったためこの2つの奨学金を頂いても足りないほどでした。

### ⑦ 留学先での住居

住居の申し込みについては上記の通りです。部屋は一人部屋でした。

### ⑧ 留学先での語学状況

講義も研究も英語でした。研究については問題ありませんでしたが、講義は予想よりも話すスピードが速いこと、講義内容が量的に重いこと、そして2時間聴き続けているという状況に慣れるのに2ヶ月ほどかかりました。

⑨ **単位認定、在学期間**

単位変換はできなかったのではありません。また在学期間も延長していません。

⑩ **就職活動**

上記同様

⑪ **留学先で困ったこと**

- ・ 治安があまりよくなく、夜は一人では歩けないため、日が暮れる前に研究を切り上げなければならない。(良いことでもあるが、締め切りに迫られている時は少し不便)
- ・ 物価が高くお金が足りなくなる

⑫ **留学を希望する後輩へアドバイス**

長期留学となると、単位のことや修士論文のことなど問題が多く、また準備の段階でめげそうになることが多いと思います。また、やっていけるかなという不安も大きいです。しかし、そういうものすべてが済んで、いざ留学に行ってみると、行く前に気にしていたことは楽しさやワクワクで忘れ、行ってから発生した不安も友人に助けられたり指導教官に助けられたりと、自然と解決していくものです。留学前の準備が大変であることは否定しません。でも一方で留学中の楽しさは保証します。少しでも興味があるのなら、迷わずとりあえず行ってみる、という気持ちでぜひ挑戦してみてください。